

2020年度活動報告 CJP授業：漢字・語彙6

| | |
|-----|---|
| 著者 | 蔭山 拓 |
| 雑誌名 | 関西学院大学日本語教育センター紀要 |
| 号 | 10 |
| ページ | 64-65 |
| 発行年 | 2021-03-31 |
| URL | http://hdl.handle.net/10236/00029363 |

2020 年度活動報告 CJP 授業：漢字・語彙 6

蔭山 拓（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本クラスは、上級前半レベル以上の学習者対象¹の、日本語能力試験 N2 レベル相当までの漢字・語彙を学習するクラスである。週一回の授業で、クラス目標は、上級前半レベルの漢字語彙の意味を理解し使えるようになることと、これまで学んだ漢字語彙を分類・整理し使い分けができるようになることである。今学期は、開講前から続く新型コロナ感染症の拡大を受け、開講が約 2 週間遅れ（休講扱い）、実際の授業回数は例年より 2 回少ない通算 12 回での開講となった。また、全学・全期を通じてオンラインでの開講となり、シラバスおよびスケジュールを一部変更し、学習の進め方、課題、クイズや試験の実施方法などについても変更を加え実施した。テキストは、例年通り『トピックで学ぶ・増やす 中・上級の漢字・語彙③』（関西学院大学日本語教育センター）を使用した。

2. 授業内容

初回授業は全レベルの漢字語彙クラス合同で行い、今期はオンライン授業での開講となる旨を説明し、オンライン授業のための環境確認や通信状況の確認を行った。また、漢字語彙クラスの主旨と各レベルの授業内容の概要を説明し、加えてシラバスとスケジュールの変更についても説明した。本クラスでは、学習内容は概ね変更せずスケジュールも例年通り 1 コマで 1 課進むこととした。そして、オンライン化に伴う対応・工夫として、学習活動や学習方法の面で、授業内での漢字語彙の意味・用例の確認や例文の読み合わせなどの学習にピアワークを取り入れるなど、オンラインでの受講に学習者間の交流と個々の学習者の主体的な学習を促すようにした。また、オンライン授業の性質上、個々の学生との音声コミュニケーションや表記の相互認識の正確さが低下してしまうのを防ぐため画面共有での書記コミュニケーション・ツールの活用を試みた。宿題は、学習課の漢字語の用法とその読み・表記を問う復習プリントを課し、クイズは、漢字の表記問題に関して例年の「選び書き方式」から「PC 入力方式」に変更して作成し直し LUNA 上で実施した。そして、中間および期末試験は、公正性・公平性の確保等、オンラインでの実施上の問題から今期は実施せず、成績は学期を通じた宿題・クイズ・参加度で評価した。

¹ 本校基準のレベル 5～7 の学習者を対象とする。今期の履修登録学生は 10 名（うち 1 名は学期途中で履修中止）。

3. 成果と今後の課題

書記コミュニケーション・ツールの活用は学習者の音声理解・表記認識に相当に有効であった。一方で、学習者の漢字表記の学習には、やはり手書きによる表記の指導や評価が望ましい。オンライン上での有効なツールは指導方法の工夫が今後の課題である。また、学期末アンケートの結果（有効回答数 7）では、学習者の満足度は概ね高かったものの、学習方法や学習活動に関する 2 項目において一部「不満足」との評価を受けた（ともに 1/7）。オンライン授業対策として学習活動にブレイクアウトルーム機能を利用してピアワークを取り入れたが、他方で教師の管理が行き届かないため学習の質が必ずしも担保されていなかった可能性がある。今後、ブレイクアウトルームの利用方法やタスクの設定など学習方法や学習活動を見直しを図りたい。